

衣浦東部広域連合NEWS

問 衣浦東部広域連合事務局総務課 ☎63-0131

衣浦東部広域連合議会定例会が、8月24日に広域連合議会議場（刈谷市役所）で開催されました。議会では、一般質問、令和3年度一般会計繰越明許費の繰越しの報告の他、令和3年度一般会計歳入歳出決算認定、衣浦東部広域連合職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定、事故による損害賠償の額の決定及び和解、令和4年度一般会計補正予算についての計4議案が原案どおり可決されました。

また、令和3年度一般会計歳入歳出決算が認定され、歳入総額は59億8,724万8,588円、歳出総額は57億8,232万5,740円、差引残額2億492万2,848円となりました。歳入では、関係市の分担金が51億6,153万975円で全体の86.2%を占めています。歳出では、消防費が55億7,564万3,298円で全体の96.4%を占めています。

歳入

科 目	予算現額(円)	収入済額(円)	構成比	収入率
分担金及び負担金	5,161,530,000	5,161,530,975	86.2%	100.0%
使用料及び手数料	19,548,000	20,479,500	0.4%	104.8%
国庫支出金	97,821,000	97,821,331	1.6%	100.0%
県支出金	41,000	60,000	0.0%	146.3%
財産収入	4,266,000	7,070,118	0.1%	165.7%
寄附金	1,000	0	0.0%	0.0%
繰越金	257,597,000	257,596,025	4.3%	100.0%
諸収入	15,366,000	18,990,639	0.3%	123.6%
連合債	423,700,000	423,700,000	7.1%	100.0%
計	5,979,870,000	5,987,248,588	100.0%	100.1%

歳出

科 目	予算現額(円)	支出済額(円)	構成比	執行率
議会費	2,243,000	2,225,045	0.0%	99.2%
総務費	218,112,000	199,637,575	3.5%	91.5%
消防費	5,734,194,000	5,575,643,298	96.4%	97.2%
公債費	5,321,000	4,819,822	0.1%	90.6%
予備費	20,000,000	0	0.0%	0.0%
計	5,979,870,000	5,782,325,740	100.0%	96.7%

今回選出の衣浦東部広域連合議会議員

(議席番号順、敬称略)

刈谷市選出

深谷英貴、城内志津、鈴木正人、鈴木絹男

副議長 鈴木正人

碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内市史資料調査室 ☎41-4566

No.99 おいしいものづくり(4)

～前浜の早生甘藷、落花生～

明治10年(1877)の教科書『愛知県地理誌』に「碧海郡誌／物産ハ、酒…大浜木綿、芋なり」とあります。

「芋」というのは甘藷(サツマ芋)のことです。大浜村、西端村では18世紀後半から栽培を始め、尾張国に出荷するほどでしたが、文久2年(1862)に前浜新田の金原金作がつるの早出し法を発見し、それが早生甘藷として広まって大産地となったのです。

落花生の国内生産は、明治4年(1871)、横浜の農家が初めといわれていますが、明治4～6年頃、大浜村戸長(村長)の石川三碧が矢作村の人から入手した落花生の種子を高松惣吉と石川金作がもらって栽培したのが始まりです。昭和初期には年生産額数万円を挙げるまでになりました。(『碧海郡案内』・『大浜町誌』)

早生甘藷と落花生の発展に貢献したのが高松惣吉の長男和次郎です。7月に甘藷を早掘りして、10月に落花生の収穫をするという効率的な作業サイクルを考案しました。前浜新田一帯の、砂地で微量の塩分を含む土質が最適で、よく育ちました。彼は販売方法も工夫し、明治45年(1912)に有限会社碧南甘藷落花生販売組合を作り、特産品としての地位を築きました。棚尾村の齋藤甚四郎は高松和次郎と力を合わせ、ニンジンやタマネギの特産地としての地位も確立しました。

人参ごはんや地豆(落花生)の五目煮といった郷土料理も明治以来の農業に由来するのでしょうか。



△収穫した甘藷を運ぶ『碧海郡案内』明治43年刊